



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	陳 省仁 教授について
Author(s)	佐藤, 公治
Citation	北海道大学大学院教育学研究院紀要, 113, 149-154
Issue Date	2011-08-22
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/46995
Type	departmental bulletin paper
File Information	113Sato-2.pdf



陳 省仁 教授について

佐 藤 公 治*

A Profile of Emeritus Professor Shing-Jen Chen

Kimiharu SATO

陳 省仁教授は2010年3月31日をもって北海道大学を定年退職され、2010年4月からは本学の名誉教授となっている。陳教授は1984年に本学教育学部の助手として赴任以来、教育学部助教授、教育学部附属乳幼児発達臨床センター助教授、同教授として附属乳幼児発達臨床センターの研究発展に尽力され、1997年から2006年の間、同センターのセンター長として活躍された。また、同センターにおける研究と教育を目的として行われてきた「北大幼児園」における保育の運営と責任の任を幼児園園長として長く担ってきた。

陳教授は、2007年から2008まで北海道心理学会の会長を務め、北海道の心理学研究の発展にも寄与してきた。

陳教授は英国・オックスフォード大学大学院において社会人類学を専攻され、その後広島大学大学院教育学研究科、北海道大学大学院教育学研究科では、発達心理学の研究に転じ、特に母子関係を両者の間で交わされる情動とその生成に関する研究を勢力的に展開されてきた。特に、乳幼児の泣きの分析を通して親と子の間の相互行為の微視的な過程を分析することで新しい知見を提供しこれらの研究成果の一端は、氏の学位論文である *The Development of Spontaneous Crying in Early Infancy: The Ontogeny of an Action System*. としてまとめられ、1990年に教育学博士の学位を取得している。また、附属乳幼児発達臨床センターにおける共同研究プロジェクトとして展開された乳児の気質・母子相互作用・愛着形成に関する縦断的研究にも発達初期における母子の間の情動的コミュニケーションを中心とした研究、あるいは研究全体の推進にも大きく寄与された。これらの研究成果は共同研究の成果となって具体化されているが、中でも研究プロジェクトの代表者であった三宅和夫氏、および乳幼児の発達研究では著名なカリフォルニア大学キャンパス教授との共著として発達研究では最も権威のある学術雑誌の一つである *SRCD* モノグラフ誌にまとめられている (Kazuo Miyake, Shing-Jen Chen & Joseph J. Campos (1985). *Infant temperament, mother's mode of interaction, and attachment in Japan: an interim report*. I. Bretherton & E. Waters (Eds.), *Growing points of attachment: theory and research*. Monographs of *SRCD*, Serial No. 209, Nos. 1-2. Pp. 276-297.)。

陳教授は、発達心理学の本格的研究を開始する前には社会人類学を専門にしており、人間発達の問題を人類学的視点から論じるという広い視角から考究していくという態度を持ち続けられている。このような問題関心は、子育てに関する学際的研究として展開されることになり、日本、及び東アジアを中心とした子育て文化、子育ての伝統、親の育児観などについて

* 北海道大学大学院教育学研究院人間発達科学分野 教授

の歴史的・比較文化的研究を実証的資料に基づいた学際的研究を行い、これらの一連の研究は子育ての問題を検討していくための多くの知見を提供するものになっている。

あるいは、近年は養育性の形成に関する研究に積極的に取り組んでおり、子育ての経験の中で養育性がどのように育っていくのかといった実証的研究に加えて、将来、子育てを担っていく児童・生徒の子育てに対する関心・意欲を高め、また子育て能力の育成のあり方といった学校教育でも積極的に取り組んでいくべき課題として問題提起を行っている。

今回の陳教授退職記念号であるこの紀要でも、特集論文として養育性に関わる論文として陳氏によって新たに書かれた論文とそれに対する4名のコメント論文、そしてコメント論文についての陳氏のリプライを載せている。なお、この退職記念号の後半には、一般論文として3本の論文を載せているが、いずれも人間発達に関わる論考である。

略 歴

- 1968年 中華民国・国立政治大学法学院公共行政学系卒業
- 1975年 英国・オックスフォード大学大学院社会人類学修士課程修了
- 1978年 広島大学大学院教育学研究科修士課程修了
- 1984年 北海道大学大学院教育学研究科博士後期課程単位修得退学
- 1990年 教育学博士（北海道大学）
- 1984年 北海道大学教育学部助手
- 1991年 北海道大学教育学部助教授
- 1992年 北海道大学教育学部附属乳幼児発達臨床センター助教授
- 1997年 北海道大学教育学部附属乳幼児発達臨床センター・センター長
- 1998年 北海道大学教育学部附属乳幼児発達臨床センター教授
- 2001年 北海道大学大学院教育学研究科附属乳幼児発達臨床センター教授
- 2002年 北海道大学大学院教育学研究院附属乳幼児発達臨床センター教授
- 2010年 北海道大学大学院教育学研究院定年退職

主要研究業績

【著 書】

- 1 Japanese studies of infant development 1986 In H. Stevenson, H. Azuma, & K. Hakuta (Eds.), Child development and education in Japan. New York: W.H. Freeman. Pp. 135-146.
共著者：三宅和夫
2. 「泣き」や「ぐずり」と乳児の発達 1991 子どもの性格と母子関係（三宅和夫編）東京東京大学出版会 Pp. 77-94. 共著者：呉 敬慈
3. Child-caring culture and modernization: Israel, China, and Japan. 1992 In Michael E. Lamb, Kathleen J. Sternberg, Carl-Philip Hwang, & Anders G. Broberg (eds.), Child Care in Context. Hillsdale, New Jersey : Lawrence Erlbaum Associates. Pp. 395-399.

4. 文化人類学からの示唆 1992 発達心理学ハンドブック (東洋・繁多進・田島信元 編集) 東京 福村出版 Pp. 384 - 398.
5. 情緒と気質 1992 新児童心理学講座 第2巻 胎児・乳児期の発達 (高橋道子編) 金子書房 Pp. 97-136. 共著者: 草薙恵美子
6. 乳幼児期の気質と発達 1992 児童心理学の進歩 Vol. 31 (日本児童研究所編) 東京 金子書房 Pp. 31~57. 共著者: 星信子, 草薙恵美子
7. 乳児の運動・情動発達研究におけるダイナミック・システムズ・アプローチ 1993 現代発達心理学入門 (無藤隆編) 京都 ミネルヴァ書房 Pp. 35-44.
8. 子別れの本能から子別れの文化へ 1995 子別れの心理学 (根ヶ山光一・鈴木晶夫編著) 東京 福村出版 Pp. 60-76.
9. Positive childishness: Images of childhood in Japan. 1996 In C.P. Hwang, M.E. Lamb, & I. E. Siegel (Eds.), Images of childhood. Hillsdale, New Jersey: Lawrence Erlbaum Associates. Pp. 113-127.
10. Are Japanese young children among the gods? 1996 In, David W. Shwalb & Barbara J. Shwalb (Eds.) Japanese Childrearing: Two Generations of Scholarship, New York: Guilford Publications. Pp. 31-43.
11. 認識と文化のからみ: 「文化普遍」か「文化固有」か 1998 心理学のなかの論争 (認知心理学における論争 (丸野俊一編著) 京都 ナカニシヤ出版 Pp. 251- 267.
12. 「寄養」から見た現代中国社会の家族と子育て 1999 社会と家族の心理学 (東洋・柏木恵子編) 京都 ミネルヴァ書房 Pp. 16-22.
13. 新生児の泣きの分析 2000 発達研究の技法 (田島信元・西野泰広編著) 東京 福村出版 Pp. 193-196.
14. 里帰りは日本社会の知恵 2000 新心理学がわかる 東京 朝日新聞社 Pp. 14-17.
15. 「個の理解」をめざす発達研究 2003 東京 有斐閣 共著者: 三宅和夫・氏家達夫
16. 乳幼児に関する縦断研究: 資料収集の構え, 一時的処理と個体変化の軌跡 2005 「構造構成的発達研究法の理論と実践: 縦断研究法への体系化に向けて」 (西條剛央編著) 京都 北大路書房
17. 基礎発達心理学 2006 放送大学教育振興会 共著者: 氏家達夫
18. 祖父母によるアロマザリング 2010 「ヒトの子育ての進化と文化ーアロマザリングの役割を考えるー」 (根ヶ山光一・柏木恵子編著) 東京 有斐閣 Pp. 231-245.
19. 発達心理学概論 2011 放送大学教育振興会 共著者: 氏家達夫

【学術論文】

1. Kazuo Miyake, Shing-Jen Chen & Joseph J. Campos (1985). Infant temperament, mother's mode of interaction, and attachment in Japan: an interim report. I. Bretherton & E. Waters (Eds.), *Growing points of attachment: theory and research. Monographs of SRCD*, Serial No. 209, Nos. 1-2.
2. 陳 省仁 (1986). 新生児・乳児の「泣き」についてー初期の母子相互交渉及び情動発達にお

ける泣きの意味－ 北海道大学教育学部紀要, 48 号, 187-206.

3. Shing-Jen Chen (1987). The development of the organization of infant crying: a dynamic systems approach. *R.C.C.C.D. Annual Report 1986-1987*, No. 10, 49-53.
4. 陳 省仁・高橋 義信 1989 親子関係の比較文化的研究－日米乳児の母子関係を中心として－ 心理学評論, 3 1 巻 1 号, 101-111.
5. Shing-Jen Chen (1990). The development of spontaneous crying of an infant: the first three months. *R.C.C.C.D. Annual Report 1988-1989*, No. 12, 49-57.
6. Shing-Jen Chen (1992). The microgenesis of graphic representation in children. *R.C.C.C.D. Annual Report 1990-1991*, No.14, 63-71.
7. Shing-Jen Chen & G. Savelsbergh (1993). Absence of avoidance response to impending collision in children. *R.C.C.C.D. Annual Report 1991-1992*, No.15, 43-48.
8. G. Savelsbergh & Shing-Jen Chen (1993). Looming: An information source for avoiding and making contact. *R.C.C.C.D. Annual Report 1991-1992*, No.15, 49-54.
9. Shing-Jen Chen & Jason S. Rand (1996). Towards an understanding of cultural psychology: a case for janken. *R.C.C.C.D. Annual Report 1991-1992*, No.15, 49-54.
10. D. Shwalb & Shing-Jen Chen (1996). Sacred or selfish? a survey on parental images of Japanese children. *R.C.C.C.D. Annual Report 1994-1995*, No.18, 33-44.
11. R.G. Barr, S.-J. Chen, B. Hopkins & T. Westra (1996). Crying patterns in preterm infants. *Developmental Medicine and Child Neurology*, 38, 345-355.
12. 星 信子・草薙 恵美子・陳 省仁 (1997). 乳児の気質的特徴としての情動表出におけるスタイルは存在するか：実験室気質測定による検討. 教育心理学研究, 45(1), 96-104.
13. Emiko Kusanagi, Nobuko Hoshi & Shing-Jen Chen (1997). An examination of psychometric properties and validity of the Toddler Behavior Assessment Questionnaire. *R.C.C.C.D. Annual Report 1995-1996*, No.19, 33-43. 1997.
14. Shing-Jen Chen & Dahui He (1998). 'Jiyang': long-term nonparental child rearing in China. *R.C.C.C.D. Annual Report 1996-1997*, No.20, 75-79.
15. Nobuko Hoshi, Emiko Kusanagi, Shing-Jen Chen & Yoshinobu Takahashi (1997). The relation between emotionality and empathy-related responses in Japanese young children. *R.C.C.C.D. Annual Report 1996-1997*, No.20, 31-42.
16. Shing-Jen Chen (1998). Other's voice / own voice: (re)production of other's voice and its apprenticeship in Japanese young children. *R.C.C.C.D. Annual Report 1996-1997*, No.20, 1-10.
17. Nobuko Hoshi & Shing-Jen Chen (1999). Emotion communication of Japanese mothers and their infants. *R.C.C.C.D. Annual Report 1997-1998*, No.21, 27-34.
18. Emiko Kusanagi, Nobuko Hoshi & Shing-Jen Chen (1999). Structure, developmental change, and sex differences in temperament of Japanese children. *R.C.C.C.D. Annual Report 1997-1998*, No.21, 17-26.
19. 星 詳子, 陳 省仁 (2001). 携帯近赤外分光装置と無線システムを用いた非拘束脳機能計測. 脳と発達 33:S242.
20. Hoshi Y, Shing-Jen Chen, Liu A- Q. & Tamura M (2001). Movable cognitive studies

- with a portable, telemetric near-infrared spectroscopy system. *NeuroImage* 13:S18.
21. Hoshi Yoko, Chen Shing-Jen & Tamura Mamoru (2001). Movable cognitive studies with a portable telemetric near-infrared spectroscopy system. *R.C.C.C.D. Annual Report 1999-2000*, No.23, 21-27.
 22. E.Kusanagi, Shing-Jen Chen, & N.Hoshi, (2000). Psychometric properties of the Toddler Behavior Assessment Questionnaire applied to Japanese children. *Psychologia*, 43, 262-274.
 23. 陳 省仁 (2000). 子育て文化比較のお話 季刊・芽 NO.20-No.24. (1999-2000).
 24. 草薙 恵美子・星 信子・陳 省仁・高橋 義信 (2001). 仮想場面での幼児の物語産出と共感的反応及び後の道徳性の発達の関係 北海道心理学研究, 24, 1-11.
 25. 常田 美穂・陳 省仁 (2001). 乳幼児期の共同注意の発達ーダイナミックスシステムズ論的アプローチ 北海道大学大学院教育学研究科紀要, 84 号, 287-306.
 26. Miho Tsuneda, & Shing-Jen Chen, (2002). Joint attention as a system property of the infant-caregiver interaction system. *RCCCD Annual Report*, No.24, 1-12.
 27. Yoko Hoshi, Shing-Jen Chen, & Mamoru Tamura (2001). Spatiotemporal imaging of human brain activity by functional near-infrared spectroscopy. *American Laboratory*, 33(20):35-39.
 28. Yoko Hoshi, & Shing-Jen Chen, (2002). Regional cerebral blood flow changes associated with emotions in children. *Pediatric Neurology*, 27, 275-281.
 29. Shing-Jen Chen (2003). Searching for the invisible with eye movements: The beginning of shift of attention to inner mental objects. *RCCCD Annual Report 2002-2003*, No.26, 1-8.
 30. Shing-Jen Chen 2005 Notes on a dynamic systems approach to the study of development of interaction in holding and being held. *RCCCD Annual Report*, No. 27, 27-36.
 31. 星 詳子・陳 省仁 (2005). fNIRS: 発達心理学と認知脳科学のインターフェース. 臨床脳波, 47: 499-504.
 32. 星 詳子・陳 省仁 (2005). 小児の運動制御における前頭極の役割: ウェアラブル NIRS システムを用いた研究 脳と発達, 37:196.
 33. Shwalb, D. W., Shwalb, B. J., Kusanagi, E., Chen, S.-J., Wilkey, B., & MacKay, R. (2006). Contexts of childrearing in Japan and the United States: Daily life settings, relationships, and activities. *RCCCD Annual Report*, No. 28, 115-124.
 34. Hoshi, Nobuko & Chen, S.-J. (2006). Development of infant distress and maternal regulation behavior observed at home during the first year. *RCCCD Annual Report*, No. 28, 13-21.
 35. Shing-Jen Chen, (2007). The changes in developmental niche: Nurturance formation in young people in Japan. *RCCCD Annual Report*, No. 29, 25-33.
 36. 陳 省仁 (2007). 現代日本の若者の養育性形成と学校教育 子ども発達臨床研究 創刊号, 19-26.
 37. 常田美穂・陳 省仁 (2008). 乳児の共同注意行動の発達に寄与する養育者の行動特徴:

モノから交渉相手への注意のシフトに焦点を当てて．北海道大学大学院教育学研究院紀要 106 号, 135-147.

38. 小林由希子・陳 省仁 (2008). 出産に関わる里帰りと養育性形成．北海道大学大学院教育学研究院紀要 106 号, 119-134.
39. 陳 省仁・星 信子 (2009). 反発性という視点から見た子どもの泣き・ぐずり行動の発達の意義．乳幼児医学・心理学研究, 18 (2), 75-84.